

---

らぶ。

nakoso

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

らぶ。

### 【Nコード】

N6681E

### 【作者名】

nakoso

### 【あらすじ】

彼は、わたしのどこを好きになったのだろう。

「ラブ」。

漢字にしたら、「裸舞」。

あたしはただ、裸で舞いたいだけ。

狂ったくらい、裸で舞いたいだけ。

でもそのうちに気付いてしまう。

彼が欲しかったのは「裸婦」なんだと。

あたしが裸で舞ってるだけで、彼はとことんラブを求めている。

彼にとって、濁点は重いらしい。

あたしには付いている、濁点が重いらしい。

気付いてしまったからには、いつまでも躍っていることなんてできるわけもなく。

急に恥ずかしくなったあたしは、いそいそと服を着て、でも大人しくしてるだけなの癪だから、せめてもの反抗で手近なものを投げ付ける。

それでも彼は平気なもので、向けられた背中に当たった濁点は空しく返って来るだけ。

ころころころころ。

転がった濁点はあたしの足元にまで転がって、そのまま動かなくなつた。

今のあたしを例えれば、達筆なタッチで「恋」と書かれたガスボンベを背負って、左手に導火線、右手にライターを構えた、なんだからよくわからない格好なんだ。

ライターで導火線に着火すれば火は瞬く間にガスボンベに至って、「恋」の文字が爆発するんだ。

どっかーん！ って。

何もかもが燃えてしまえば、もう裸で舞うことしかできない。

あたしはただただ、狂ったように踊り続ける。

これぞ「裸舞」。「ラブ」なんだ。

なのに今持っているライターときたら、ガス欠ときたもんだ。どれだけ火打ち石をこすったところで、一向に火なんて出してやれない。

目の前の背中中は動かない。

足元から拾い上げた濁点をいじくって、おもむろにその背中に狙いを付けた。

再び飛べ、濁点！

発射！

ずどーん！

ころころころころ。

またもや足元に転がってきた濁点。

かわいそうだね、おまえも。

よし次こそは、と先程より狙いを研ぎ澄ます。

背中に「恋」のガスボンベを背負うあたしは、この時ばかりはスナイパーに化ける。

このまんまじゃ、どう足掻いたって火を出してくれないんだ。出してくれなきゃ困るんだ。

右目をつむって、左目を凝らす。濁点と背中を結ぶ線を、限りなく一直線に。

口の中にたまった唾を飲み込んで。

鼻から息を吸って。

集中力を解き放つ。

……ばかばかしい。

一度は構えた濁点を、胸のポケットに仕舞い込む。次の出番まで、チャックまでして厳重に。

ガス欠のライターなんて用はないのさ。

いつでも火の吹けるライターじゃなきゃ。

いつまでも火を吹き続けられるライターじゃなきゃ、意味がないのさ。

ってーか、火の吹けないライターなんてライターじゃないじゃん。ライターじゃなくて、それはただの……役立たずだ。プラスチックの、役立たずだ。

部屋を後にする間際、わざとらしいくらい大きな音を立ててやったのに、起きる気配はまったくナシ。

うん、救いようもナシ。

朝の空気は凍ったように張り詰めていて、バスを待つ間はコートに首を引っ込めなきゃならなかった。

ぱたぱたと足踏みしながら、凍える両手に息を吹きかける。

右手を入れたコートのポケットから、ライターが出てきた。

ガス欠ライター。

よくよく見れば、わずかにガスが残っている　今なら、火が付くかもしれない。

まだ、付くのかもしれない。

ちよつと、火打ち石をこすればいいだけだ。

かちつ、と音を立てて、こすればいいだけ。

左手に持った導火線は「恋」と書かれたガスボンベにつながっていて、火を付けければ瞬く間にボンベに着火する。

こすって、みようか。

ガスが切れたって、またガスを入れれば火は付くじゃないか。

前のように、また火を付けてくれるじゃないか。

ガスを、また入れれば。

入れれば……

遠くから、バスの音が聞こえた。

意を決してライターを握り込む。

ばかばかしい。

本日2度目の悪態と一緒に右手を振りかぶった。

「ちくしょおおおおおおおおお！」

高く飛び上がったライターは曇天に紛れて消えた。

今日の天気は、曇りのち雨。ところにより雷雨でしょう。  
明日からは晴れ渡り、清々しい青空に恵まれそうです。  
あたしの、天気予報。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6681e/>

---

らぶ。

2010年12月17日02時42分発行